

「学生との楽しい音楽発表」 ～歌唱、器楽を熊大学生とコラボレーションして～

熊本県立荒尾支援学校

1 はじめに

本校小学部一般学級は、平成 26 年度より教科「音楽」を時間割上に位置づけていろいろな取組を行っている。27 年度は音楽専門の教師がいない中で、熊本大学教育学部藤原准教授の助言を仰ぎながら、授業づくりを行った。12 月に学生が中心となって行う「スクールコンサート」のプログラムの一つに、小学部一般学級の児童と学生がコラボレーションする内容を取り入れた。歌唱「にじ」と器楽「ドレミの歌」である。たいへん好評で、28 年度も熊大との連携を確約し 4 月を迎えた。

今年度は、音楽の発表を 7 月「音楽会」、10 月「ARA・SHI まつり」、12 月「発表会」の 3 回とし、学生とのコラボレーションは 12 月ということが決定した。27 年度の反省から、発表内容の工夫、合同練習の回数増加等を課題にあげ、具体的な計画の段階から学生も加わり、授業作りの一端を担うことになった。

2 打ち合わせ①

8 月に熊大で実施（10 月音楽担当者出席）。10 月の「ARA・SHI まつり」でのステージ発表について案を持参し、藤原准教授のアドバイスを受ける。発表は歌唱「きみのこえ」と器楽「サンバおてもやん」である。器楽は初めて取り組む楽曲であるが、楽しいリズムに子どもたちの楽器を重ねることにした。

まつり当日は法被を着用し元気に楽しく発表できた。12 月の発表会にうまくつながることを願った。

3 打ち合わせ②

11 月上旬、熊大で実施（12 月音楽担当者出席）。学生も参加して、学生とコラボレーションする「発表会」について詳しく話し合った。歌唱は新しい曲に取り組むこととし、器楽は 10 月に発表した「サンバおてもやん」とした。

打ち合わせ後、歌唱曲について学生が 10 曲ほど提案し「世界中の子どもたちが」を選曲した。決定後すぐに担当者が振り付けを考え学生に送った。また、児童への学生の付き方、器楽の学生の入り方、隊形等についても電話やメールで詳しく打ち合わせていった。

4 合同練習①

12 月 5 日、学生と藤原准教授来校。学校と学生、別々に練習したものを初めて合わせる。歌唱「世界中の子どもたちが」は身近な位置で手をつなぐ、肩に手を置く等、「サンバおてもやん」は同じパートを一緒に演奏する、一緒に隊形移動をする等、打ち合わせどおりに練習した。子どもたちも一生懸命取り組んだ。



合同練習①

いくつか課題も見えてくる。職員間での反省会を行い、電話やメールで藤原先生をとおして学生と詳細に打ち合わせた。課題をクリアして、翌日の合同練習の効率化を図った。

5 合同練習②

12月6日、熊大へ出かける。学生は出迎えから見送りまで終始リードしてくれた。楽器の運搬が厳しいことから歌唱の練習と学生の演奏の鑑賞となった。かかわる児童と学生を確定する、学生の立ち位置を確認する等の前日の課題をクリアし、歌そのものもたいへん良くなり雰囲気も和らいだ。コラボレーションの一体感が伝わった。昼食も学生と一緒にとり、より身近な仲間として認識できた。昼食時に担当者は藤原准教授や学生と最終確認を行った。



合同練習②

6 発表会当日、そして、スクールコンサート

12月15日、発表会当日。学生と藤原准教授来校。授業参観日で保護者も多く参観された。練習の成果を出し切って、「世界中の子どもたちが」と「サンバおてもやん」を披露する。元気な声、大きな動き、そしてリズムカルな演奏がたいへん良かった。この日を目指にこれまで頑張ってきて、素晴らしい発表を行うことができた。児童も学生も一人一人がやり遂げた充実感を味わったことだろう。10分程度の発表後、児童は体育館からプレイルームへ場所を変えて、音楽以外の発表を保護者に披露した。学生も参観し児童の拍手を送った。昼食も一緒にとり、学生と一緒にいる時間の長い一日となった。いい交流日となった。

12月19日、スクールコンサート。これまでの倍くらいの学生、藤原准教授、大杉准教授来校。全児童生徒、保護者が参加。今年も学生主導のスクールコンサートが開かれた。そのプログラム②で「世界中の子どもたちが」と「サンバおてもやん」を披露する。学生と4回目のコラボレーション。児童は慣れた感じで、元気な歌、リズムカルなサンバを思いきり披露した。大きな拍手を受けた。

7 おわりに

計画段階から学生も参加したことで、楽曲選びから、振付の動き、楽器の入り方、子どもたち一人一人へのかかわり方、立ち位置等一つ一つを丁寧に話し合い、進めることができた。打ち合わせ2回、合同練習2回、メールや電話などでのやりとり10数回、これら綿密な準備の下に実現した学生とコラボレーション発表会である。子どもたちの元気な歌声、演奏、そして、学生の優しいかかわりが心に残る楽しい音楽発表であった。互いにまだ歌っていたい、まだ演奏していたい、と名残惜しいひとときだった。学生とコラボレーションしたことで音楽に幅がで、素晴らしい音楽活動を体験できた。藤原准教授、学生たちに感謝したい。

